



見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。

セゾン・ グローバルバランスファンド

追加型投信/内外/資産複合

交付運用報告書

第19期（決算日 2025年12月10日）

（作成対象期間 2024年12月11日～2025年12月10日）

第19期末(2025年12月10日)

基 準 価 額	30,351円
純 資 産 総 額	622,647百万円
第19期	
騰 落 率	14.5%
分 配 金(税 込) 合 計	一円

- 騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入しております。
- 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。

<閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「商品ラインアップ」⇒「セゾン・グローバルバランスファンド」⇒「レポート」

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者の皆さんへ

平素は「セゾン・グローバルバランスファンド」に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第19期決算を行いましたので、当期の運用状況をご報告いたします。

当ファンドは、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。当期間も変わらず、この方針に基づき運用を行って参りましたことを併せてご報告申し上げます。

今後も、皆さまの長期資産形成のお役に立てるよう、引き続き努めて参りますので、より一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

いそがないで歩こう。



セゾン投信

■お問い合わせ先

セゾン投信株式会社 お客様窓口

〒170-6048 東京都豊島区東池袋3-1-1

[ホームページ] <https://www.saison-am.co.jp>

[電話番号] 03-3988-8668

[営業時間] 9:00～17:00 (土日祝日、年末年始を除く)

運用担当者の紹介

執行役員、マルチマネージャー運用部長、ポートフォリオマネージャー

瀬下 哲雄 (SESHIMO Tetsuo)

主な役割

投資戦略の策定、具体的投資方針の策定

運用経験年数

19年

投資に対する考え方

景気や市場動向の予想に頼らず、
一貫した姿勢で投資を行うことが成果につながる



経歴

1996年 上智大学経済学部経営学科卒業

2006年 セゾン投信入社

2007年 セゾン・グローバルバランスファンド、セゾン資産形成の達人ファンド設定時より運用を担当

2011年 ポートフォリオマネージャー 就任(現職)

2014年 運用部長 就任

2021年 マルチマネージャー運用部長 就任(現職)

2024年 執行役員 就任(現職)

セゾン・グローバルバランスファンドは、ファンド・オブ・ファンズの仕組みを活用して、バンガード社のインデックスファンドへの投資を行うことにより、受益者の皆さまの長期の資産形成に資することができるよう、不確実な市場の予想に頼ることなく、長期的なリターンと幅広い分散によるリスクの軽減を重視して、チームで運用を行っています。

◎受賞実績



「R&I ファンド大賞2025」5年連続 受賞

最優秀ファンド賞 部門：投資信託10年 カテゴリー：バランス型(標準)



「LSEG リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2025」4年連続 受賞

最優秀ファンド賞 部門：投資信託部門 評価期間：10年

リッパー分類：ミックスアセット 日本円 バランス型

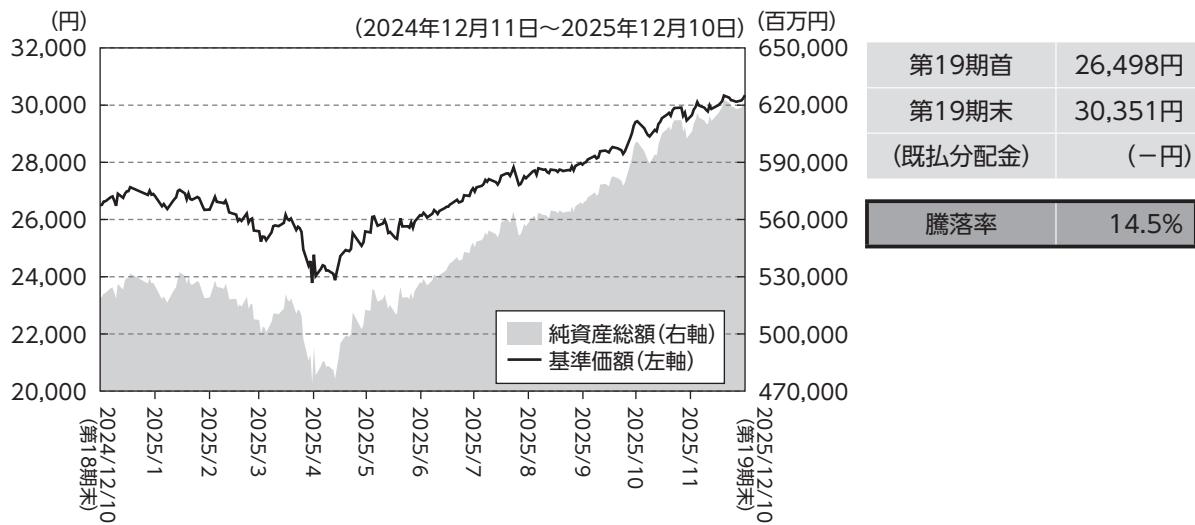


「ウエルスアドバイザーアワード2024」2年連続 受賞

「“NISA成長投資枠”WA優秀ファンド賞」 部門：バランス型

運用経過の説明

期中の基準価額等の推移



- 当ファンドには、ベンチマークはありません。
- 分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- 表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- 上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。



ここをCHECK!

【基準価額の主な変動要因】

当期は、欧州国債と日本国債に投資するファンド以外の上昇と対ドル、対ユーロでの円安が基準価額の上昇要因となりました。

<基準価額のプラス要因>

バンガード・500・インデックス・ファンド (米ドル)
対ユーロでの為替レート (円安)
対ドルでの為替レート (円安)
バンガード・エマージング・マーケット・ストップ・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ヨーロピアン・ストップ・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・ジャパン・ストップ・インデックス・ファンド (円)
バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストップ・インデックス・ファンド (米ドル)

期中騰落率
14.5%

バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (円)

<基準価額のマイナス要因>

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要	
	(2024年12月11日~2025年12月10日)			
	金額	比率		
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	134円 (73) (52) (9)	0.495% (0.267) (0.193) (0.035)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 ・委託した資金の運用の対価 ・交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 ・運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価	
(b) その他費用 (監査費用) (そ の 他)	0 (0) (0)	0.001 (0.000) (0.001)	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・移転等に要する費用	
合計	134	0.496		

期中の平均基準価額は27,116円です。

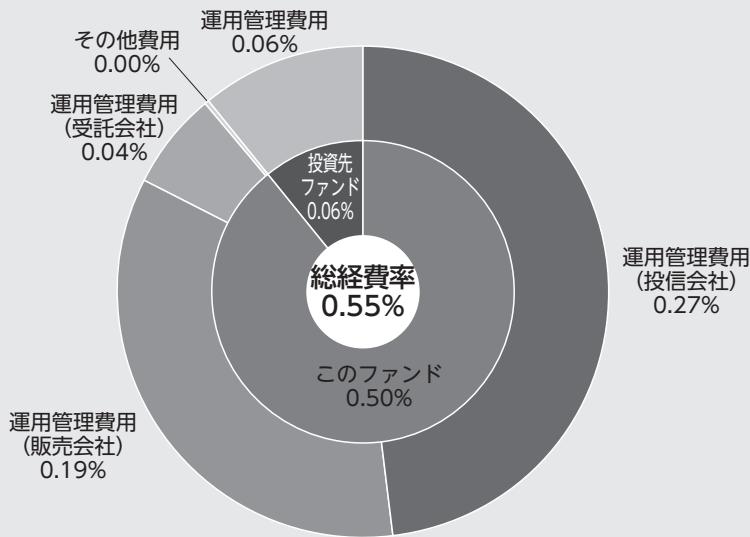
- ・期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- ・財産維持手数料は当期は発生しておりません。
- ・各金額は各項目ごとに円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

ここをCHECK!

<参考情報>

総経費率

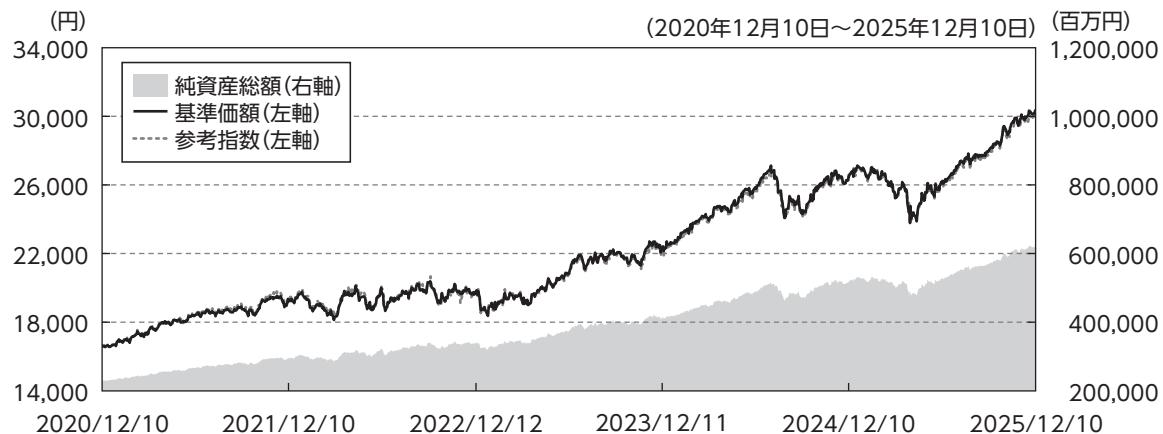
当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.55%です。



総経費率(①+②)	0.55%
①このファンドの費用の比率	0.50%
②投資先ファンドの経費率 (運用管理費用以外の費用を含む)	0.06%

- ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費率を乗じて算出した概算値です。
- 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- 各比率は、年率換算した値です。小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。
- 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
- ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



	2020年12月10日 決算日	2021年12月10日 決算日	2022年12月12日 決算日	2023年12月11日 決算日	2024年12月10日 決算日	2025年12月10日 決算日
基準価額 (円)	16,651	19,206	19,645	22,351	26,498	30,351
期間分配金合計(税込) (円)	—	—	—	—	—	—
基準価額の騰落率 (%)	—	15.3	2.3	13.8	18.6	14.5
参考指数の騰落率 (%)	—	16.8	1.0	13.3	19.5	13.6
純資産総額 (百万円)	230,238	294,071	337,818	412,876	518,971	622,647

- 当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- 参考指数は、基準価額の反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。
- グラフの参考指数は、2020年12月10日の値が基準価額と同一になるように計算しております。
- 上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。
- 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

ここをCHECK!

<参考情報>

当期末(2025年12月10日)と5年前(2020年12月10日)の比較は以下のとおりです。

基準価額の騰落率(5年)	82.3%
参考指数の騰落率(5年)	81.3%
純資産額の増加額(5年)	392,409百万円

・騰落率は年率換算しておりません。

投資環境

【株式市場の概況】

株式市場は上昇しました。

景気の先行きに対する楽観的な見方が維持されるなかで全般的に上昇し、なかでも人工知能(AI)関連投資の拡大やAIの普及に伴う生産性の向上や収益拡大への期待が高まったことを受けて、情報技術セクターやコミュニケーションセクターが大きく上昇したほか、金融セクターも大きく上昇しました。

地域別では、米国でAIに対する期待が高まったことを背景に情報技術セクターやコミュニケーションセクターが上昇し、欧州では景気の先行きに対する悲観的な見方が後退したことや、防衛費の拡大観測が高まったことを背景に金融セクターと資本財・サービスセクターが上昇しました。日本ではAI関連投資の拡大期待が高まったことや、防衛費の拡大観測が高まったことを背景に情報技術セクターや資本財・サービスセクターが上昇し、新興国は、AI関連投資の拡大期待が高まったことを受けて、情報技術セクターが上昇しました。

期の初めから3月頃までは、トランプ米大統領による関税などの経済対策を巡る懸念を背景に、軟調な展開となりました。4月はトランプ米大統領が相互関税と呼ぶ、大規模な関税措置を発表したことを見て、景気減速や長期的な経済成長率の低下への不安が広がって下落しました。その後は、トランプ米大統領が関税措置の全面的な実施を先送りし、他国・地域との交渉を行う方針を示したことを見て反発し、5月は米国と中国が関税率の引き下げで合意したことを見て、安心感が広がって上昇しました。6月はイランとイスラエルの軍事衝突が発生し、中東情勢が緊迫化して下落する局面はあったものの、7月は日本や欧州連合(EU)が米国と関税措置を巡る交渉で合意したことを見て、先行きへの不透明感が和らいで上昇しました。8月は米国で労働市場の弱さが確認され、景気の先行きに対する懸念が高まったものの、同時に政策金利の引き下げ観測が高まって上昇しました。9月はAI関連投資の拡大期待が高まったことを受けて上昇しました。10月は米国で一部の政府機関が閉鎖され、不透明感が高まったものの、米国と中国の貿易摩擦の激化懸念が後退したことを見て上昇しました。11月はハイテク関連株式の過熱への警戒が高まるなかで、AI関連投資の収益化に対する懐疑的な見方が広がって下落する局面があったものの、その後は米国で政策金利の引き下げ観測が高まったことを受けて上昇しました。

【国債市場の概況】

国債市場は米国が上昇し、ユーロ圏と日本が下落しました。

米国債は、2024年12月に政策金利が引き下げられたものの、物価の上昇が続いていることを背景に、政策金利の引き下げ観測が後退して下落しました。その後は、景気の先行きに対する楽観的な見方が後退するとともに、物価上昇への警戒が和らいで上昇しました。4月はトランプ大統領が相互関税と呼ぶ、大規模な関税措置を打ち出したことを受けて、混乱や景気減速への警戒が広がって上昇しました。その後は、トランプ大統領が関税措置の全面的な実施を先送りし、5月は米国と中国が関税率の引き下げで合意したことを見て、安心感が広がって軟調に推移しました。6月から7月にかけては方向感のない展開となり、8月は米国で労働市場の弱さが確認され、政策金利の引き下げ観測が高まって上昇しました。9月は政策金利が引き下げられるなかで上昇し、10月は一部の政府機関が閉鎖されたことなどを受けて、不透明感が高まって上昇しました。11月は政府機関の閉鎖が解除されたものの、労働市場の弱さへの懸念が高まるとともに、政策金利の引き下げ観測が高まって上昇しました。12月は世界的な金利の高止まりが意識されて下落しました。

ユーロ圏の国債は、2024年12月に政策金利が引き下げられたものの、物価の上昇が続いていることを背景に、政策金利の引き下げ観測が後退して下落しました。3月は、ドイツ政府が財政支出を拡大する方針を決定したことを見て、下落しました。4月はトランプ米大統領が大規模な関税措置を打ち出したことを受けて、混乱や景気減速への警戒が広がって上昇しました。5月から9月にかけては、政策金利の引き下げ観測が後退したものの、景気の先行きへの不透明感が高

まって方向感のない展開となりました。10月は、景気減速への警戒が高まるなかで上昇しましたが、その後は当面は政策金利が据え置かれるとの見方が強まつたことを背景に、下落しました。

日本国債は、1月に政策金利が引き上げられたものの、今後の引き上げが慎重に行われるとの見方が広がって底堅く推移しましたが、その後は政策金利の引き上げ観測が高まって下落しました。4月はトランプ米大統領が大規模な関税措置を打ち出したことを受けて、混乱や景気減速への警戒が広がって大きく上昇する局面はあったものの、その後は財政赤字の拡大懸念が高まって下落しました。8月は景気の堅調さが確認され、政策金利の引き上げ観測が高まって下落しました。その後は、財政赤字の拡大懸念が高まって下落する局面はあったものの、日本銀行が政策金利の引き上げを慎重に行うとの見方を背景に底堅く推移しました。10月には高市政権が発足し、11月以降は大規模な経済対策が打ち出されて財政赤字の拡大観測が高まつたほか、物価上昇観測や政策金利の引き上げ観測が高まつたことを受けて下落しました。

【為替市場の概況】

円は下落し、対ドル対ユーロで円安となりました。

米国で景気の先行きに対する楽観的な見方が後退して、政策金利の引き下げ観測が高まつたことや政治的な混乱への警戒が高まつたことを受けてドルが下落し、景気の先行きに対する悲観的な見方が後退し、政策金利の引き下げ観測が後退したユーロが上昇しました。円は、1月に政策金利が引き上げられたものの、引き続き金利の高い通貨を選好する動きが続くなつたこと、日本銀行が慎重に政策金利の引き上げを行うとの見方が強まつたことや、政府支出の拡大による財政赤字の拡大観測が高まつたことを受けて、ドルに対しても下落しました。

期の初めは、米国やユーロ圏で政策金利が引き下げられたものの、今後の政策金利の引き下げペースが緩やかになるとの見方が広がつてドルとユーロが上昇し、日本銀行が政策金利の引き上げを慎重に行うとの見方が強まつて円が下落して、対ドル対ユーロで円安となりました。1月から2月は日本で政策金利の引き上げ観測が高まるなかで、米国で景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したことを受けた円が上昇して、対ドル対ユーロで円高となりました。3月は欧州で景気の先行きに対する悲観的な見方が後退してユーロが上昇し、対ユーロで円安となりました。4月はトランプ米大統領が相互関税と呼ぶ、大規模な関税措置を打ち出したことを受けて、米国景気の先行きに対する楽観的な見方が後退してドルが下落し、対ドルで円高となりました。6月はユーロ圏で政策金利の引き下げ観測が後退したことを受けたユーロが上昇し、対ユーロで円安となりました。7月は米国で景気の先行きに対する明るい見方が広がつたことを受けてドルが上昇して円が下落し、対ドルで円安となりました。8月は米国で政策金利の引き下げ観測が高まつてドルが下落し、対ドルで円高となりました。10月は日本で政策金利の引き上げ観測が後退したことを受けた円が下落し、対ドル対ユーロで円安となりました。11月は、日本で財政赤字の拡大観測が高まつて円が下落し、対ドル対ユーロで円安となりました。12月は、日本で政策金利の引き上げ観測が高まつたものの、ドルやユーロとの金利差が大きな状況が続くとの見方を背景に円は下落し、対ドル対ユーロで円安となりました。

当ファンドの運用経過と結果

当期も、引き続き積立などでのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って各ファンドへの投資を行い、株式と債券の比率が目標から乖離した局面では、比率が上昇したファンドを売却して比率が低下したファンドを購入することによりリバランスを行いました。当期は、3月から4月にかけて株式市場が下落した局面で、債券ファンドの売却と株式ファンドの購入によるリバランスを複数回行いました。それ以外の時期は、株式市場が上昇基調であったことから、主に債券ファンドの購入を行ったほか、株式ファンドの売却と債券ファンドの購入によるリバランスを行いました。



ここをCHECK!

＜参考情報＞

期中の売買及び取引の状況（2024年12月11日から2025年12月10日）

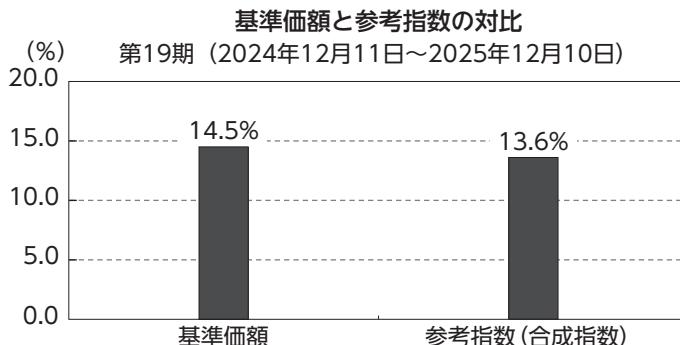
投資証券			買付		売付	
			口数	金額	口数	金額
外 国	ア メ リ カ	バンガード・500・インデックス・ファンド	千口 247	千米ドル 120,439	千口 224	千米ドル 124,024
		バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口 -	千円 -	千口 23	千円 661,500
	ア イ ル ラ ン ド	バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	503	4,690,000	71	680,000
		バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口 -	千米ドル -	千口 10	千米ドル 1,800
		バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	67	9,300	67	11,300
		バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	1,172	135,600	457	53,200
		バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	千口 -	千ユーロ -	千口 39	千ユーロ 9,600
		バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	888	101,300	372	42,000

・金額は受渡し代金です。

・千単位未満を切り捨てて表示しております。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指標の当期の騰落率の対比です。



- 当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指標のMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・グローバル国債:G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指標として記載しております。
- 参考指標は、基準価額への反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

分配金

基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきました。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第19期	
	2024年12月11日～2025年12月10日	
当期分配金 (対基準価額比率)	—	—
当期の収益	—	—
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	21,136	

- 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。原則として積立などでのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して、目標とする投資比率に沿うように各ファンドへの投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整(リバランス)を行うことにより、投資を継続していただいている皆さまの資産の長期的な成長を目指してまいります。

ポートフォリオマネージャー 瀬下 哲雄

お知らせ

当期中の約款変更について

2024年12月11日から2025年12月10日までの期間に実施した約款変更は以下のとおりです。

●2025年4月1日付

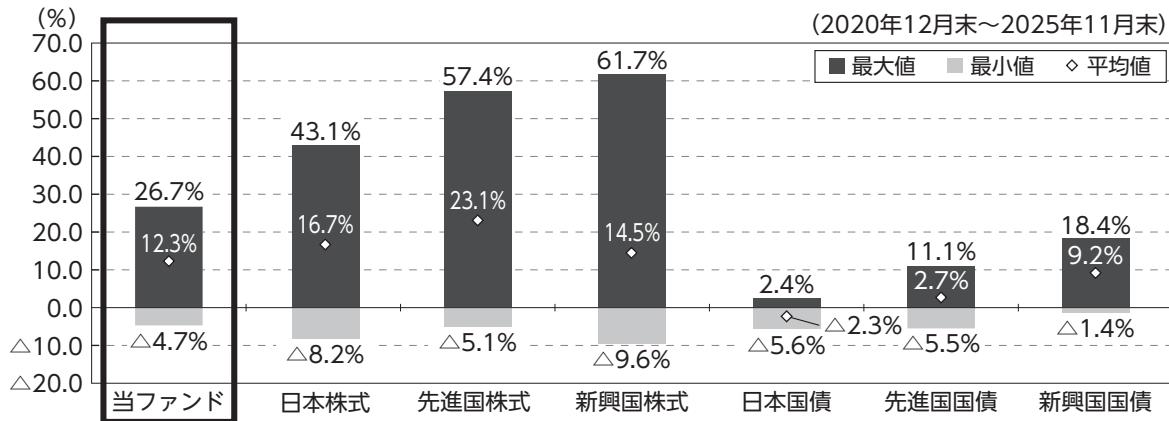
投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。

※2026年3月11日付で、信託財産留保額を廃止することに伴い、投資信託約款に所要の変更を行う予定です。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、主として米国バンガード社が運用するインデックスファンドの中から資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに分散投資します。具体的な資産配分は運用状況ならびに市場状況に応じて隨時変更(増減ならびに入替など)します。 原則として、為替ヘッジは行いません。
主 要 投 資 対 象	有価証券に投資する外国投資証券を投資対象とします。
運 用 方 法	当ファンドの運用は、ファンド・オブ・ファンズ方式とし、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。 株式と債券の基本資産配分比率は、原則として株式50%、債券50%とします。 株式、債券の地域別配分比率は、それぞれの市場時価総額(規模)を勘案して行います。
分 配 方 針	毎決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象が少額の場合には分配を行わないこともあります。 信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。 当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、税金を差し引いた後、再投資されます。

(参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- 上記の騰落率は、直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり決算日に対応した数字とは異なります。

《各資産クラスの指数》

- 日本株式：MSCI ジャパン・インデックス(配当込)
 先進国株式：MSCI ワールド・インデックス(配当込)
 新興国株式：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込)
 日本国債：ブルームバーグ・グローバル国債：日本インデックス
 先進国国債：ブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックス
 新興国国債：ブルームバーグ新興市場自国通貨建て国債インデックス

- 全ての指数は米ドル建てのものをわが国の対顧客電信売買相場の仲値を利用して円換算しております。

- MSCIジャパン・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、日本の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
 - MSCIワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
 - MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
 - MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、先進国と新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
 - ブルームバーグ・グローバル国債：日本インデックスは、日本国債で構成されるインデックスです(為替ヘッジなし)。
 - ブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックスは、米国、カナダ、日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアの国債で構成されるインデックスです(為替ヘッジなし)。
 - ブルームバーグ新興市場自国通貨建て国債インデックスは、中国、韓国、インドネシア、マレーシアなど新興国の自国通貨建て国債で構成されるインデックスです(為替ヘッジなし)。
 - [Bloomberg®]は、Bloomberg Finance L.P.、および同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limited(以下「BISL」)をはじめとする関連会社(以下、総称して「ブルームバーグ」)のサービスマークです。
- ブルームバーグは、ブルームバーグ指数に対する一切の専有的権利を有しています。ブルームバーグは、このマテリアルを承認もしくは支持するものではなく、また、このマテリアルに含まれるいかなる情報の正確性もしくは完全性についても保証するものではなく、明示黙示を問わず、このマテリアルから得られる結果に關していかなる保証も行わず、また、法律上認められる最大限度において、ブルームバーグはこのマテリアルに関して生じるいかなる侵害または損害についても何らの責任も債務も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

(2025年12月10日現在)

■組入ファンド

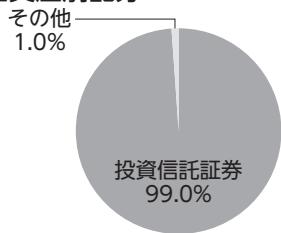
	第19期末(2025年12月10日) 組入比率
バンガード・500・インデックス・ファンド	33.5%
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	26.4%
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	19.3%
バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド	7.4%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	5.5%
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	3.2%
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.5%
バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	1.2%
その他(短期金融資産等)	1.0%
組入ファンド数	8銘柄

・組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

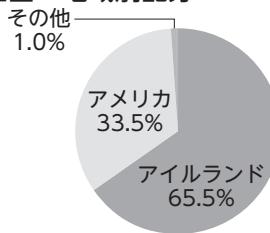
・詳細は、運用報告書(全体版)に記載しております。

・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

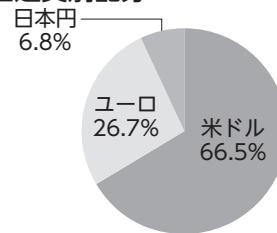
■資産別配分



■国・地域別配分



■通貨別配分



・国・地域別配分は、投資しているファンドの発行国を表示しております。

・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。



ここをCHECK!

投資対象別に分類した組入資産の状況

■資産別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
株式を中心に投資するファンド	50.1%	5銘柄
債券を中心に投資するファンド	48.9%	3銘柄
その他(短期金融資産等)	1.0%	—
合 計	100.0%	8銘柄

・詳細は、「組入ファンドの概要」をご参照ください。

・小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

■地域別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
米国を中心に投資するファンド	59.9%	2銘柄
欧州を中心に投資するファンド	26.7%	2銘柄
日本を中心に投資するファンド	5.7%	2銘柄
太平洋(日本を除く)を中心に投資するファンド	1.2%	1銘柄
新興国を中心に投資するファンド	5.5%	1銘柄
その他(短期金融資産等)	1.0%	—
合 計	100.0%	8銘柄

純資産等

項 目	第19期末
	2025年12月10日
純 資 産 総 額	622,647,687,142円
受 益 権 総 口 数	205,149,395,821口
1万口当たり基準価額	30,351円

・期中における追加設定元本額は27,412,642,751円、同解約元本額は18,115,809,806円です。



ここをCHECK!

- ・第19期における金額ベースの追加設定額は74,081,887,086円、同一部解約額は49,217,552,795円です。
結果、第19期は差し引き24,864,334,291円の資金流入となりました。
- ・純資産等の前期末の状況は以下のとおりです。

項 目	第18期末
	2024年12月10日
純 資 産 総 額	518,971,848,584円
受 益 権 総 口 数	195,852,562,876口
1万口当たり基準価額	26,498円

組入ファンドの概要

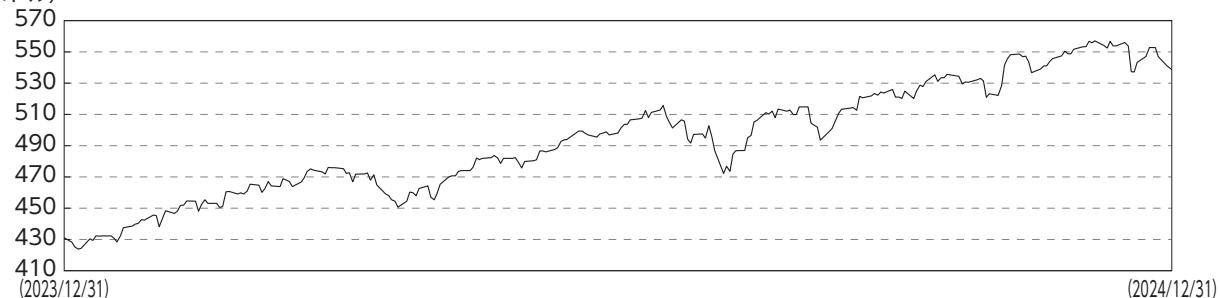
以下は当ファンドが投資対象としているバンガード社のファンドの現況です。詳細な内容につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

なお、以下の各項目の注記につきましては、22頁をご参照ください。

1. バンガード・500・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(米ドル)



・グラフは分配金再投資基準価額です。

■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	Apple Inc.	7.6
2	NVIDIA Corp.	6.6
3	Microsoft Corp.	6.3
4	Amazon.com Inc.	4.1
5	Alphabet Inc.	4.0
6	Meta Platforms Inc.	2.6
7	Tesla Inc.	2.3
8	Broadcom Inc.	2.2
9	Berkshire Hathaway Inc.	1.7
10	JPMorgan Chase &Co.	1.4
組入銘柄数		504銘柄

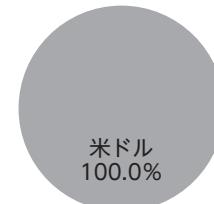
■資産別配分



■国・地域別配分



■通貨別配分



■1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

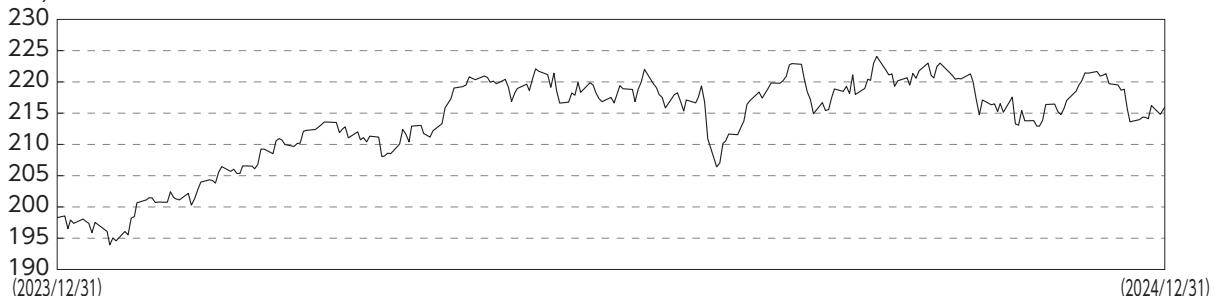
■費用明細 (2024年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.03

2. バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(ユーロ)



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	ASML Holding NV	2.7
2	Novo Nordisk A/S	2.7
3	SAP SE	2.4
4	Nestle SA	2.1
5	Roche Holding AG	2.0
6	AstraZeneca plc	1.9
7	Novartis AG	1.8
8	Shell plc	1.8
9	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	1.7
10	HSBC Holdings plc	1.7
組入銘柄数		421銘柄

■1万口当たりの費用明細

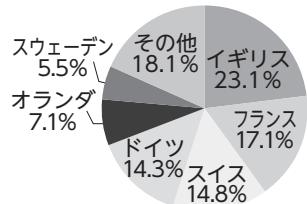
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

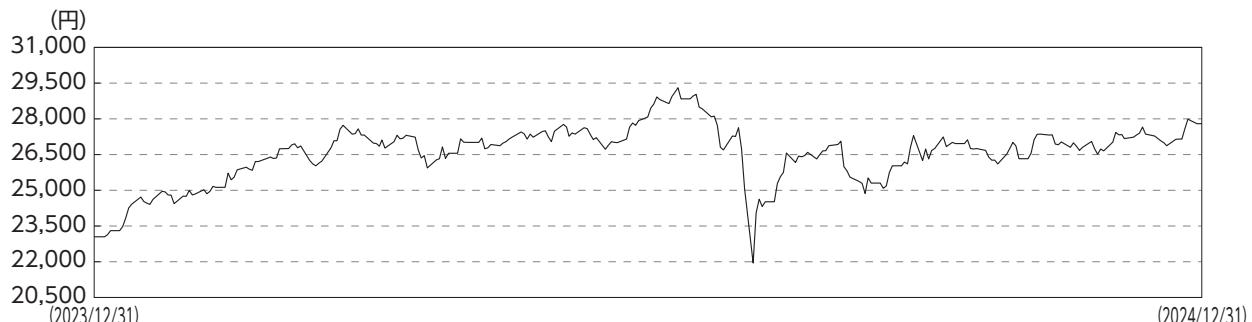
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.08

■国・地域別配分



3. バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	トヨタ自動車	5.4
2	ソニー	3.5
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.5
4	日立製作所	3.1
5	リクルートホールディングス	2.6
6	三井住友フィナンシャルグループ	2.4
7	キーエンス	2.1
8	東京エレクトロン	1.8
9	東京海上ホールディングス	1.8
10	ファーストリテイリング	1.7
組入銘柄数		191銘柄

■1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

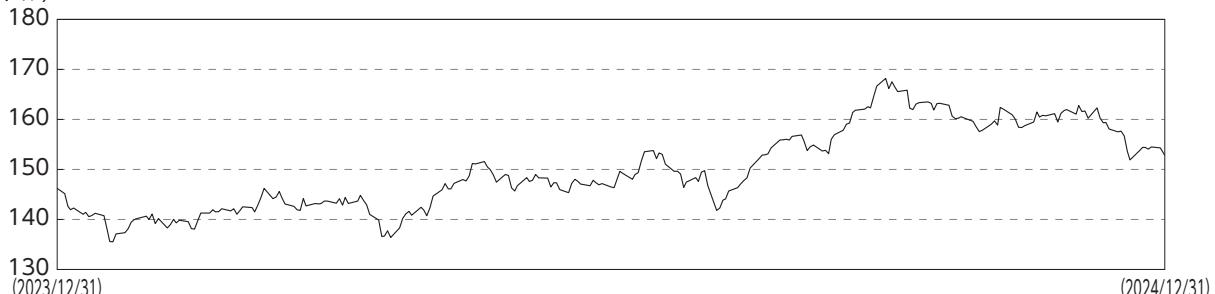
■国・地域別配分



4. バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(米ドル)



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	Commonwealth Bank of Australia	8.7
2	BHP Group Ltd.	6.8
3	CSL Ltd.	4.6
4	AIA Group Ltd.	4.3
5	National Australia Bank Ltd.	3.9
6	Westpac Banking Corp.	3.8
7	DBS Group Holdings Ltd.	3.5
8	ANZ Group Holdings Ltd.	2.9
9	Wesfarmers Ltd.	2.7
10	Macquarie Group Ltd.	2.7
組入銘柄数		103銘柄

■1万口当たりの費用明細

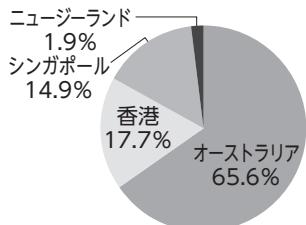
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.12

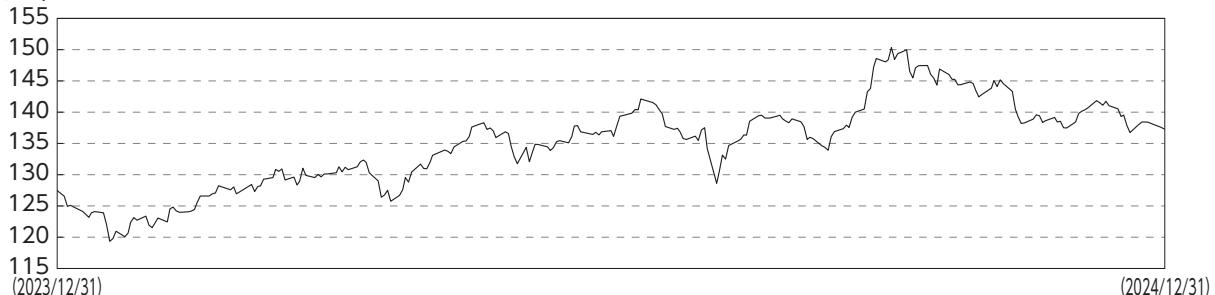
■国・地域別配分



5. バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(米ドル)



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

銘柄名称			投資比率(%)
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.		10.3
2	Tencent Holdings Ltd.		4.4
3	Samsung Electronics Co. Ltd.		2.5
4	Alibaba Group Holding Ltd.		2.2
5	HDFC Bank Ltd.		1.5
6	Meituan		1.2
7	Reliance Industries Ltd.		1.1
8	China Construction Bank Corp.		1.0
9	ICICI Bank Ltd.		1.0
10	Infosys Ltd.		0.9
組入銘柄数			1,276銘柄

■1万口当たりの費用明細

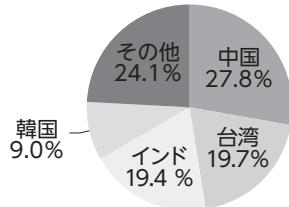
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

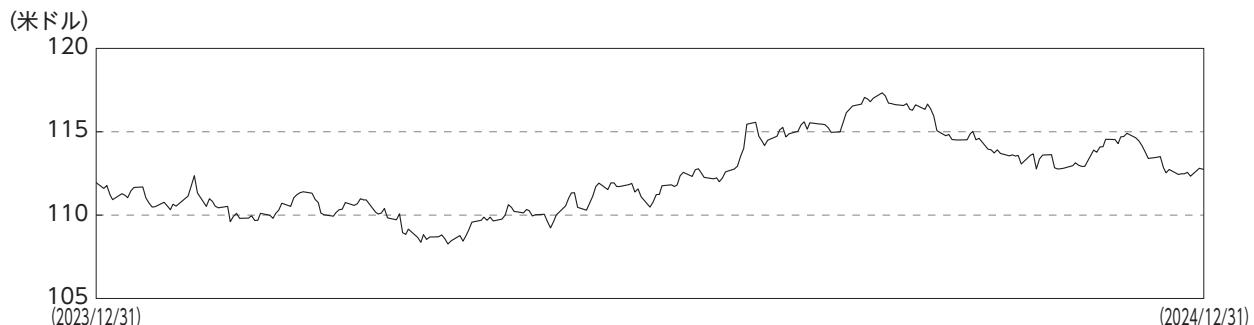
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.16

■国・地域別配分



6. バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	US TREASURY NOTE (15/5/2034)	1.04
2	US TREASURY NOTE (15/2/2034)	1.01
3	US TREASURY NOTE (15/11/2033)	0.94
4	US TREASURY NOTE (15/8/2034)	0.91
5	US TREASURY NOTE (15/8/2033)	0.80
6	US TREASURY NOTE (15/8/2031)	0.80
7	US TREASURY NOTE (31/12/2026)	0.79
8	US TREASURY NOTE (15/11/2032)	0.78
9	US TREASURY NOTE (15/5/2032)	0.77
10	US TREASURY NOTE (15/11/2031)	0.77
組入銘柄数		362銘柄

■1万口当たりの費用明細

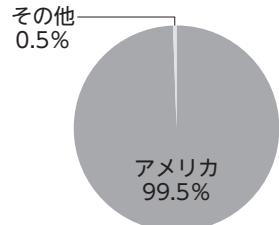
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

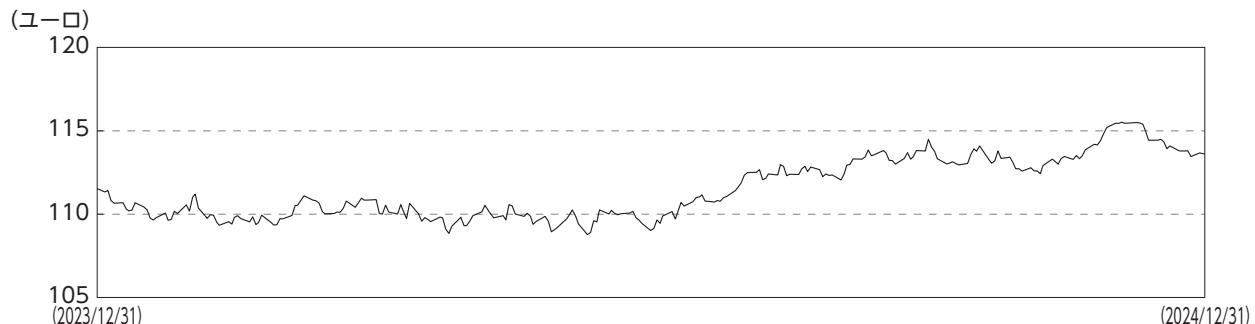
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

■国・地域別配分



7. バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	REPUBLIC OF ITALY BOND (1/7/2029)	1.00
2	REPUBLIC OF ITALY BOND (15/2/2027)	0.87
3	FRENCH REPUBLIC BOND (24/9/2027)	0.87
4	FRENCH REPUBLIC BOND (25/11/2033)	0.78
5	REPUBLIC OF ITALY BOND (15/7/2031)	0.78
6	FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY BOND (15/11/2030)	0.77
7	FRENCH REPUBLIC BOND (25/2/2027)	0.76
8	FRENCH REPUBLIC BOND (24/9/2026)	0.75
9	FRENCH REPUBLIC BOND (25/11/2029)	0.71
10	REPUBLIC OF ITALY BOND (1/10/2029)	0.69
組入銘柄数		1,126銘柄

■1万口当たりの費用明細

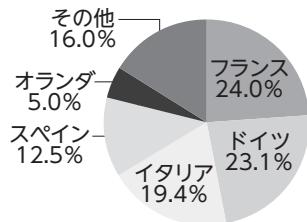
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

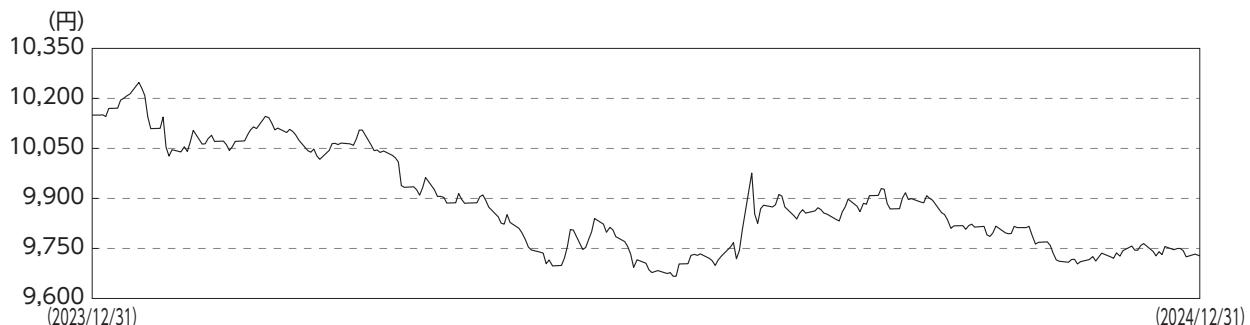
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

■国・地域別配分



8. バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

	銘柄名称	投資比率(%)
1	第376回利付国債(10年)	1.52
2	第375回利付国債(10年)	1.28
3	第374回利付国債(10年)	1.09
4	第373回利付国債(10年)	0.95
5	第158回利付国債(5年)	0.81
6	第37回利付国債(30年)	0.80
7	第460回利付国債(2年)	0.80
8	第459回利付国債(2年)	0.72
9	第461回利付国債(2年)	0.69
10	第464回利付国債(2年)	0.69
組入銘柄数		393銘柄

■1万口当たりの費用明細

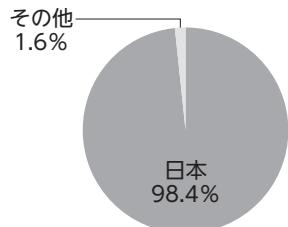
単位当たり費用明細については、開示されていないため記載しておりません。

(ご参考)

■費用明細 (2024年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率(年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.06

■国・地域別配分



-第19期-

- ・費用明細に記載されている運用管理费率とは、平均純資産総額に対する運用および管理等にかかる費用の総額の比率を示したものです。
- ・投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率です。
- ・資産別配分、通貨別配分は、ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国・地域別配分は、ファンドの投資資産に対する比率です。
- ・バンガード・500・インデックス・ファンド以外の資産別配分、通貨別配分は、開示されていないため記載しておりません。
- ・単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

「R & I ファンド大賞」は、R & I が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につき R & I が保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第2999条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は R & I に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

LSEG リッパー・ファンド・アワードは毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。選定に際しては、「Lipper Leader Rating(リッパー・リーダー・レーティング)システム」の中の「コンシスタンント・リターン(収益一貫性)」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタンント・リターンが最も高いファンドにLSEG リッパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、lipperfundawards.comをご覧ください。LSEG Lipperは、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

ウエルスアドバイザーアワード2024[“NISA成長投資枠”WA 優秀ファンド賞]は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、ウエルスアドバイザーが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はウエルスアドバイザー株式会社に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

NISA成長投資枠“WA 優秀ファンド賞”については、https://www.wealthadvisor.co.jp/event/wa_award2024/をご覧ください。

当賞は国内公募追加型株式投資信託のうち、2024年12月30日における『NISA 成長投資枠登録のアクティブファンド(ETF、DC、SMA、限定追加型を除く)』を選考対象として独自の分析に基づき、各部門別に総合的に優秀であるとウエルスアドバイザーが判断したものです。

バランス型 部門は、選考対象ファンドのうち、同年12月末において当該部門に属するファンド327本の中から選考されました。

※ウエルスアドバイザー株式会社(旧モーニングスター株式会社)

1998年3月27日の設立以来、約25年にわたり、国内の投資信託を中心とした金融商品評価事業を行ってまいりました。2023年3月30日付で米国 Morningstar,Inc ヘブランドを返還し、以降、引き続き中立・客観的な立場で、投信評価事業をウエルスアドバイザー株式会社で行っています。